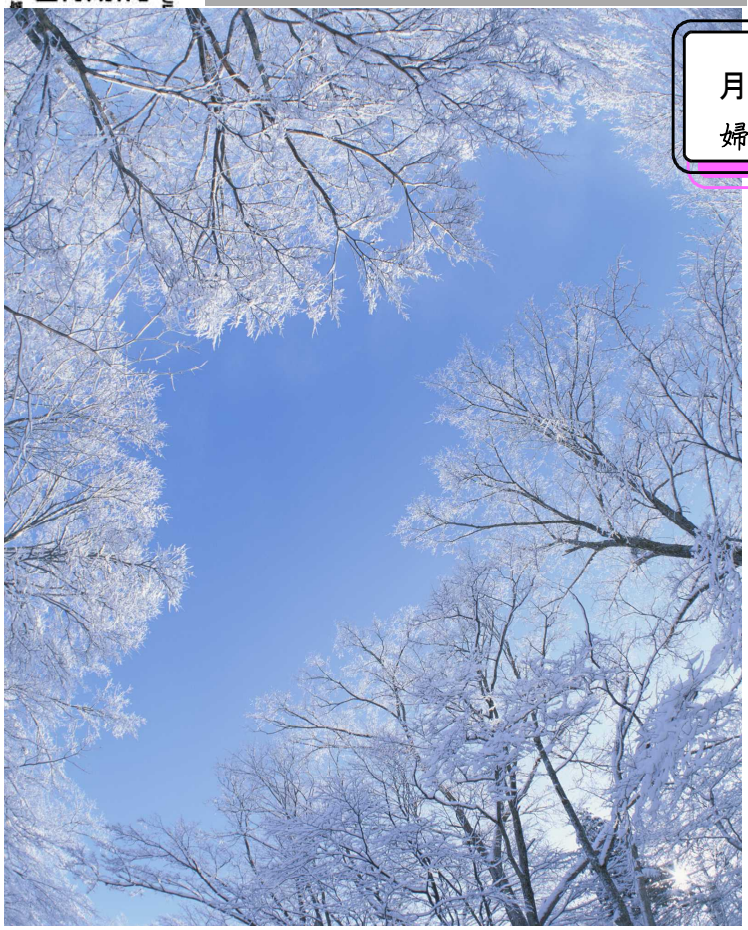
とみいし会報

富石分教会チャンネル

晴天の心

立教１８８年２月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466　090-5243-4669

とみいしホームページ



月次祭　２月１９日（水）午前１０時～
婦人会例会　２月 9日（日）午前10時～

今年の本部お節会に１月５日行ってきました。やっぱり本部のお節会は美味しいですね。

この日は日曜日とあって、団体も多くまた個人で来られている方も多かったです。私たちは別席場前の方の列に並んだのですが、参拝して並んだ場所から、東礼拝場の前でうねうねと何重にも折れ曲がって続いていました。黄色い目立つジャンバーを来た青年が２名こちらが最後尾ですと看板を持ちながら案内していました。

このときの光景はとても不思議。

真東棟から並んでいる行列は、まっすぐ東礼拝場前まで伸びてきて、そこで折れ曲がってＵターン。東筋の手前でまた折り返しＵターンを繰り返しているのですが、特に目立つ仕切りとかガイドロープのような銀行のＡＴＭ前などでよく見るものはなく、皆さん２列か３列で整然と並んでいるのです。行列もピタッと止まることが少なく、じわじわ動くのですが、不思議とずれることなく流れていく光景は、誠に不思議でした。折れ曲がってすれ違う中で、知り合いに遭遇することも多々あり、新年の挨拶を交わす光景もあちこちで見られました。

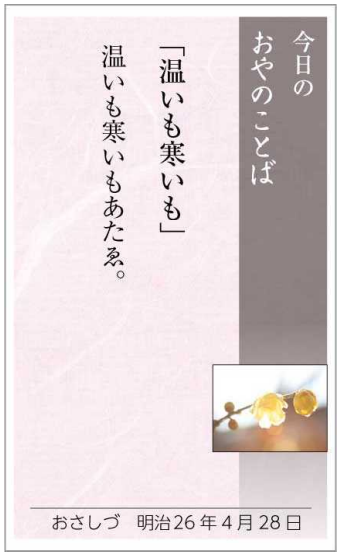
晴天の暖かい日差しの中で約１時間３０分あまり待ちました、そうして頂いたお節会はまた格別！今年からおかわりも出来るようになり、おかわりを頼むと、お椀に焼き餅と水菜がすでに入た状態で持ってこられて、そこにポットから熱いお出汁が注がれる。

これだと給仕もスムーズでずいぶんしやすいだろうと思いました。出口ではお下がりのお餅もいただけて、多くの人が喜んでおられました。この日は娘と二人。７日には嫁さんと二人でいただきました。

＊　見えなかった・・・＊

先日、久しぶりに映画館へ行きました。と言っても映画というか中島みゆきのコンサートツアー２０２４歌会 VOL.1 を映像としてまとめたムービー？です。このコンサートは奇跡的に娘が抽選を引き当てフェスティバルホールで楽しませてもらったのですが、嫁さんも見たいと言うことで、映画館での鑑賞となったわけです。この日は雪の予報から道路は大混雑。渋滞のあおりを受けて遅れてしまったのですが、ムビチケで事前予約したものは、変更できない。十分余裕を持って出たんですけど遅れた。最初の２０分くらいだけ見れなかった。後半の早変わりが見れて嫁さんは満足。そう何か発見できるとうれしくなる物ですね。ホールでは見えなかった、めがねをかけたみゆきさんのアップがみれて私も満足。

素晴らしいコンサート内容に、とても楽しませていただきました。特にエンドロール後のコンサート初演までの作り上げていく姿は、これが積み重ねられていくことの大切さなのだとも感じました。帰宅後調べると、DVD などで３月に販売されます。予約受付中だそうです。
コンサートチケットはほんとに手に入らないですからねぇ



＊　おやのこころ　＊

年明けから、厳しい寒さが続いています。北風が強く吹きつけると、思わず「寒い！」と叫びたくなります。

先日も、橋の上を歩いているとき、つい大きな声を出してしまいました。子供たちには、小さいころから「冬に地面が凍るほどの寒さじゃないと、その年は豊作にならない。冬の寒さも親神様のご守護だよ」と言い聞かせてきました。その当人が、往来で「寒い！」と叫んでいるのですから、なんとも恥ずかしい限りです。

「温いも寒いもあたゑ」

冬の寒さに身を震わせるのも、夏の炎天下に汗をぬぐうのも、すべては変わることのない親神様のご守護のおかげです。

とはいえ、教えを知識として理解してはいても、実際には、どんなときも感謝と喜びの心を忘れずに毎日を暮らすことは難しい。どうしても、不足の言葉が多くなりがちです。

手袋を忘れたので、外套の袖口に両の手を互い違いに差し入れながら家に帰り、ストーブの前で手をかざしていると、妻が温かい飲み物を用意してくれました。冷えきった体には、いつものコーヒーが何倍もおいしく感じられます。

ひと口するごとに、体の芯から温まってきます。こんなにおいしいコーヒーを味わえるのなら、今年の厳しい寒波もそれほど悪くない。ようやく、この冬の寒さに感謝する気持ちが湧いてきました。（岡）

＊おさしづ　明治二十六年四月二十八日　　山本利三郎妻コマツ乳細くなるに付事情願

さあ／＼尋ねる事情／＼、いかなるも尋ねるであろう。
又一つ尋ねて分からんであろうまい。事情諭したら、必ずいつ／＼と言えば生涯と言う。これ定めばあたゑは無うなる事は無い。よう聞き分け。あたゑがありて日々であろう。どんな者でもあたゑがある。何がどうせにゃならん、こうせにゃならん、こら言えん。言えん理聞き分け。これまで長らく事情、ころりと事情取り替え。どんな事情も諭すは内々と言う。あちらこちら寄り集まりて、内々事情定め変えて事情聞き分け。

それ／＼にあたゑ、あたゑありてあたゑ無い。
温いも寒いもあたゑ。
此処もこう、何処もどう事情あろう。めん／＼事情、小人あたゑどうと、めん／＼事情取りて、成程というは、事情心一つ理によって、あたゑ無うなる。
不足なる。これ言えんで。よう聞き分け／＼。

教祖伝逸話編

44.雪の日

明治八、九年頃、増井りんが信心しはじめて、熱心にお屋敷帰りの最中のことであった。正月十日、その日は朝から大雪であったが、りんは河内からお屋敷へ帰らせて頂くため、大和路まで来た時、雪はいよいよ降りつのり、途中から風さえ加わる中を、ちょうど額田部の高橋の上まで出た。この橋は、当時は幅三尺程の欄干のない橋であったので、これは危ないと思い、雪の降り積もっている橋の上を、跣足になって這うて進んだ。そして、ようやくにして、橋の中程まで進んだ時、吹雪が一時にドッと来たので、身体が揺れて、川の中へ落ちそうになった。こんなことが何回もあったが、その度に、蟻のようにペタリと雪の上に這いつくばって、なむてんりわうのみことなむてんりわうのみことと、一生懸命にお願いしつつ、やっとの思いで高橋を渡り切って宮堂に入り、二階堂を経て、午後四時頃お屋敷へたどりついた。

そして、つとめ場所の、障子を開けて、中へ入ると、村田イヱが、「ああ、今、教祖が、窓から外をお眺めになって、『まあまあ、こんな日にも人が来る。なんと誠の人やなあ。ああ、難儀やろうな。』と、仰せられていたところでした。」と、言った。

りんは、お屋敷へ無事帰らせて頂けた事を、「ああ、結構やなあ。」と、ただただ喜ばせて頂くばかりであった。しかし、河内からお屋敷まで七里半の道を、吹雪に吹きまくられながら帰らせて頂いたので、手も足も凍えてしまって自由を失っていた。それで、そこに居合わせた人々が、紐を解き、手を取って、種々と世話をし、火鉢の三つも寄せて温めてくれ、身体もようやく温まって来たので、早速と教祖へ御挨拶に上がると、教祖は、「ようこそ帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで。あちらにてもこちらにても滑って、難儀やったなあ。その中にて喜んでいたなあ。さあ／＼親神が十分々々受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しめ、楽しめ、楽しめ。」と、仰せられて、りんの冷え切った手を、両方のお手で、しっかりとお握り下された。

それは、ちょうど火鉢の上に手をあてたと言うか、何んとも言いあらわしようのない温かみを感じて、勿体ないやら有難いやらで、りんは胸が一杯になった。

46.何から何まで

ある日、信者が大きな魚をお供えした。お供えがすんでから、秀司が、増井りんに、「それを料理するように。」と、言い付けた。りんは、出刃をさがしたが、どうしても見付からない。すると、秀司は、「おりんさん、出刃かいな。台所に大きな菜刀があるやろ。あれで料理しておくれ。」と言った。出刃はなかったのである。

りんは、余りのことと思ったので、ある日お暇を願うて、河内へもどった。ちょうど、その日は、八尾のお逮夜であったので、早速、八尾へ出かけて、出刃庖丁と薄い刺身庖丁と鋏など、一揃い買うて来て、お屋敷へ帰り、お土産に差し上げた。

秀司もまつゑも大層喜んで、秀司は、「こんな結構なもの、お祖母様に見せる。一しょにおいで。」と促した。教祖にお目にかかって、留守にしたお礼を、申し上げると、教祖は、それをお頂きになって、「おりんさん、何から何まで、気を付けてくれたのやなあ。有難いなあ。」と、仰せになって、お喜び下された。

りんは、余りの勿体なさに、畳に額をすり付けて、むせび泣いた、という。

註八尾のお逮夜毎月二回、十一日と二十七日に、八尾の寺と久宝寺の寺との間に出た昼店。

２０２４年を振り返ると、教会に繋がる方のお出直しが多かったと思います。
　そんな中でも、１２月２４日に枚方市の社会福祉事務所から電話があり、伯母である松田サワエさんが亡くなったので、妹さんである伏井節子さんに葬儀をしてもらえないかという連絡でした。昨年春から何度か連絡を受けていて、内縁の夫の方も病院で亡くなったらしくそのことでも問い合わせがあったので、ある程度は気にかけていたのですが、突然の事に驚きました。ただ、母親も１６日に家の中で転けて骨折し入院しているので、申し訳ないですが、節子も入院中ですので、私の方では難しいです。と、お答えし、サワエさんの実家である、東山の松田の連絡先をお伝えして連絡してもらうようにしたのです。
その日の夕方、こちらからも東山の松田（大海松分教会）に念のため連絡したところ、留守電に入っていたと言うことで連絡されると言うことでした。ただ、枚方まで行くことが出来ないので、もし何か連絡があったら枚方まで行ってもらえないかという事でしたので、それは承知しました。という話で、年末はすみました。
そのとき、気になって調べたのが、生活保護者の葬儀についてです。
身寄りの無い人や孤独死の場合にも当てはまるようなのですが、今回はサワエさんが生活保護受給者だったことから、直葬という対応をされたようです。
それこそ３０数年前に初代会長と縁のある人が、孤独死されてある斎場でお骨だけが保管されていると連絡を受けて、受け取りにいったことがありました。そのときは申し訳ないと思い改めて告別式を教会で行ったことがありました。
サワエさんの場合は、実家も教会ですしお墓もありますので、一時的に預かって納骨は後日実家のお墓言うことになりました。
　年が明けて、枚方の福祉事務所より電話があり、お骨が事務所に戻ってきたので引き取りに来てもらいたいと言うことでしたので、朝から伺い、お世話になったお礼を告げて本骨と火葬証明を預かって帰りました。
　教会の祖霊殿前に八足置いてしばらくここでお静まり下さいと祈ってお願いしました。
夕つとめの時、娘が、サワエさんのお骨からのイメージとして、おばあちゃんに似た人が、むすっとした感じで見つめている。とのこと。やっぱり残念だったんだなと、それから松田に引き取られるまでの間、おつとめのたびにお鎮まり下さるよう声をかけていました。
数日後、無事松田さんに引き取られていきました。教会の祖霊様にもその気配はないと実家に帰って行かれたんだなぁと、喜んでいただけたなら良かったのだがと思う次第です。
　このことを通して、仕事とはいえ、生活保護での対応をとられる職員の人の苦労を思うと、本当にいろいろな人がいて様々なことを言われるのだろうなぁ。大変な心労だろうと思うばかりです。葬祭扶助の申請という事も初めて知ることが出来ましたし、経験として得たことは大きかったと思います。QR コードの先は、生活保護を受けている方葬儀について詳しく書かれているサイトです。参考になれば幸いです。

葬祭扶助の申請　葬祭扶助の申請　葬祭扶助の申請　葬祭扶助の申請　葬祭扶助の申請

＊　余談　けがの保険＊
前述のように、母親節子が１２月１６日に自宅で転けて骨折して入院しました。
その前日、ニッセイの担当がけがの保険更新依頼に来られて、更新したのです。
ほとんどの保険が年齢で入れないのですが、このけがの保険は８９才まで更新できると言うことで今回までは対応できますねと、更新手続きをしました。まさか翌日転けることになろうとは思いもよらなかったです。

満70才以上満89才以下の方向けケガの保険S　満70才以上満89才以下の方向けケガの保険S　満70才以上満89才以下の方向けケガの保険S

年配の方には、転けないように声をかけることはよくあります。骨折するとほぼ回復が難しいからです。今回の場合、背骨の骨折と診断されたので、連絡したところ手続きはスマホに SMS を送るのでそこから行って下さいと言うことになりました。
もし年配の方を抱えておられて転けることを心配されているのであれば、こんなのもあるのだと参考にしてみて下さい。この保険で入院費はなんとかまかなえそうです。これも、天のあたえの一つなのでしょう。